

冬休み韓国を歩くその②(世界遺産水原華城)

12月、もう少しで冬休みという15日、急に感染防止レベルが上がり、オンライン授業に。それでも無事に後期の前半を終え、25日から冬休みに入りました。

冬休み、2泊3日でソウル市の南約50キロ、世界遺産の街「水原」(スウォン)を訪ねました。水原は周囲約6キロの城壁に囲まれた世界遺産の街です。サッカーが好きな人は「水原FC」でもその名を覚えているかもしれません。また韓国ドラマ「宮廷女官チャングムの誓い」の撮影場所としても有名です。

さて、現地でもらったガイドブックには、「優雅で壮大な建築の傑作～水原華城～」と書かれていました。続けて、次のような説明が。「水原華城は、朝鮮時代の改革君主である正祖大王(李朝22代王)の夢が込められた城郭であり、韓国城郭建築史上、最も独歩的な姿を誇っている。日本植民地時代と韓国(朝鮮)戦争を経て、多くの部分が破損したが、建築状況を詳細に記録した世界記録遺産「華城城役儀軌」に基づいて、1975年から保守・復元し、1997年にその優秀性が認められ、ユネスコの世界遺産に登録された。」それでは、一周約6キロ弱の城壁をぐるっと歩き、その城壁の真ん中にある「華城行宮」も訪れたので、ご紹介させていただきます。

12月27日(土)ソウル駅9:15分発のITXに乗車。KTXという日本でいえば新幹線に当たる電車に対しITXは在来線特急です。この特急で約30分水原駅に時間通りに到着。ホテルに荷物を預け、散策開始。バスに乗り10分ほど、北西へ1.5キロほど行き、左に曲がって北へ1キロ弱、まず起点である「八達門」に到着。ここからガイドブックを見ながらぐるっと一周、城壁をめぐるりました。

八達門、これは中国の万里の長城にもある名前。きっとそこからとったのでは…など思いを巡らせ、左に折れ東に向かい時計回りに散策を開始しました。インフォメーションセンターでお金を払い、ガイドブックをもらって目の前に立ち上がる坂道からのスタートです。万里の長城とは言いませんが、つくりはかなり似ていると感じました。登り切ると、今度は右に曲がって北へアップダウンのない稜線を歩きます。



(ソウルからITXで30分460円)



(八達門を左に折れ坂道を登ります)

登り切ると、平らな道になりますが、上から見ると写真のようにかなり急な階段を登ります。登り切って見てみると、階段の先に水原の街と八達門が確認できました。北に進路をとり、平らな稜線を城壁に沿いながら歩いていきます。そして南西暗門、西舗楼、西将台（華城将台）と続き、西将台を過ぎると下りに入りました。



（振り返ると急な坂道と街並み）



（西将台からは下り道になっていきます）



（写真左側、高くなっているのが外壁です）

下りの城壁を見てみるとよくわかると思いますが、内側は城壁が低く、外側が城壁が高くなっています。この構造も万里の長城と同じで、外敵の侵入を阻むつくりとなっています。そんなことを思いながら歩みを進めると、どんどん下っていき、華西門、長安門へと達します。長安はもちろん、唐の都だったところ。現在は西安と言われるその当時としては世界 No1 の都だったところ。きっとその名前をとっているのでは、と思いながら歩みを進めました。



下りきったところに、西の門＝華西門（左）があり、そこからわずか10分ほどで北の門＝長安門（右）が現れました。4つある門の西、北の門に当たります。

長安門を過ぎると、城壁は少し南下し、北水門（華虹門）に出ます。ここが絶景ポイントとパンフレットには書いてありました。10時半に八達門を出発して、このあたりでちょうど12時に。水原の名物である「水原ワンカルビ」に舌鼓です。華虹門を横に見る絶好の位置に、ガイドブックにもものっている有名な水原カルビの店「ヨンポカルビ」があり、ここにすることにしました。

もちろん韓国なので、まず数種類のパンジャンが運ばれてきます。それに箸をつけながら、メッチュ（ビール）を飲みました。約2時間歩いて飲む昼ビールは最高です。韓国料理のいいところ？悪いところ？このパンジャンでビールが飲めちゃうんです。メインの料理が来た時には、最初に頼んだビールはすでに空。また頼んでしまう＝飲みすぎてしまうんですよね（笑）

そうこうすると、メインの水原カルビが運ばれてきました。机真ん中の、肉焼き器のふたを開け、店員さんがくるくるっと骨に巻かれたワンカルビを広げ、火の上に。焼き方が下手な我々は、その手さばき（技）を見ながら待つだけです。

大きなハサミで切り分けながらどんどん焼いていきます。おいしそうなおいが漂い、骨の周りの肉も焼いてくれ、むしゃぶるように食べてしまいました。味は甘めで日本人好みだと舌が感じていました。



（絶景スポット北水門「華虹門」）



（名物水原ワンカルビに舌鼓）



（青空に映える東将台「鍊武台」）

さて、お腹がいっぱいになったところで散策再開です。華虹門を渡って、東に向かって進みます。すぐに、東将台（鍊武台）につきました。広々とした館のような作りになっており、小さな門をくぐると、大きな空間に出て、目の前にもう一つの建物が現れました。階段を上り、進んでいくと、この建物に鍊武台と書かれた看板が下がっていました。東と西にある将台は、軍事指揮所であり、いずれも周りを遮るものがなく180°一望できます。特に山の上にある西将台は絶景です。



（世界遺産の碑の前は撮影スポット）

東将台の前には、芝生の大きな広場があり、市民？観光客？の憩いの場になっています。案内所もあり、その横には世界遺産を示す碑もありました。この碑の後ろは東将台から城壁が続き、東の門＝蒼龍門へと続きます。この東、西の門は「空心敦」と呼ばれる建築物になっており、兵士が中に入って敵の様子を探る目的がありました。韓国ではこの水原華城が唯一見られる場所です。建造当時の原形を保っている建築学的にも優れた施設だそうです。ここにはバルーン発着所もあり、空から水原華城の全貌も見るすることができます。

（東の門＝東将台「蒼龍門」）



（今回散策の出発の地＝八達門）

（韓国特有の門＝華城行宮）



城壁を1周散策し、出発した八達門に戻ってきました。時間はお昼御飯も入れて約3時間半。このあと、八達門から進路を北にとり城壁の中にある「華城行宮」を訪れました。独特の門をくぐり、入場料を払って行宮の中へ。復元された建物の部分はそんなに広くはないのですが、その時代に思いを馳せることができました。ここは、チャングムの誓いの撮影場所で、まだ見ていないのでドラマが楽しみになったのです。